

第 57 回船舶気象懇談会の開催報告

平成 27 年 1 月 30 日(金)に、海洋気象学会および一般社団法人日本船長協会(以下、「船長協会」)の共催による第 57 回船舶気象懇談会(以下、「懇談会」)が、日本郵船ビル(神戸市中央区海岸通 1-1-1)の 4 階多目的ルームで、15 時から 17 時にかけて開催されました。

懇談会には、海洋気象学会から石田会長、北村理事長はじめ会員の方々、船長協会から小島会長はじめ会員や関係の方々、合わせて 50 余名の参加がありました。

海洋気象学会石田会長による挨拶の後、講演に入り、最初に船長協会小島会長から「日本海運の安全を支える思想、歴史 - 船員の視点から - 」と題した話がありました。沖縄での子供達に海運に係る講演を紹介された後、大陸との海外交易から鎖国・開国、大戦に至る船舶・海運の歴史的な経過を辿られ、最後にシーマンシップの変遷についてジョン万次郎を例に論じられました。

次に、大阪管区気象台の杉本予報課長から「海上の気象情報等の改善について」という講演が行われました。天気図領域の拡大により、これまで以上に熱帯じょう乱の状況や警報領域の広がりが把握できるようになったこと、新たに風等の 4 つの要素について、図形式として視覚的に分かりやすい情報の提供を開始されることが説明されました。さらに、海上安全情報に係る国際的な枠組みや、その中で検討されている新たな波浪情報について紹介されました。

最後に、気象衛星センターの北村所長から「新しい『ひまわり』について」の講演がありました。静止気象衛星(ひまわり)1号から8号までの変遷を振り返り、今回の8号では多チャンネル化、分解能、画像取得頻度などの機能が大きく向上していることを、打ち上げの様子、試験画像やそれを編集した動画なども交えて紹介されました。

引き続き、海洋気象学会の理事長でもある北村氏から、学会が活動終了を決めるに至った経緯と、懇談会は形を変えて継続する方向で検討を行っている旨、報告がありました。また、大阪管区気象台の永井気象防災部長から、このような場はとても有益であり、気象台として関係を継続していきたいとの発言がありました。

最後に、船長協会の小島会長から、これまで長く続いたこの懇談会が果たしてきた役割について振り返るとともに、関係者が会するこのような集まりの重要性を強調され、懇談会は終了しました。

なお、懇談会終了後も交流の場が設けられ、海洋気象学会、船長協会関係者をはじめ、官民を問わない海事関係者により、海洋気象や海事に係る「海の気象」についての議論や情報交換が活発に行われました。



海洋気象学会 石田会長
による開会の挨拶



(一社)日本船長協会 小島会長
による閉会の挨拶